

第3回 神戸2025ビジョン策定に向けた有識者検討会議

－議事要旨－

日時：令和2年10月16日（金）15：00～

場所：三宮研修センター会議室 5階505号室

<出席者>

委員：

氏名	役職
(会長) 品田 裕	神戸大学 理事
植戸 貴子	神戸女子大学 健康福祉学部教授
小野 セレスタ 摩耶	滋慶医療科学大学院大学 医療管理学部研究科 准教授
加藤 恵正	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員 コーポレートアフェアーズ総括部長
栗山 尚子	神戸大学大学院工学研究科 准教授
小林 由佳	神戸新聞社 論説委員
中林 志郎	神戸商工会議所 専務理事
服部 孝司	神戸市民文化振興財団 理事長
藤岡 義己	兵庫県中小企業家同友会 代表理事
眞鍋 智子	連合神戸地域協議会 副議長

(敬称略、五十音順)

<配布資料>

- ◆ 議事次第
- ◆ 資料1： 神戸 2025 ビジョン（素案）
- ◆ 資料2： 今後のスケジュール
- ◆ 資料3： 神戸市 with コロナ対応戦略
- ◆ 資料4： 「新型コロナウイルス感染症の広がりに伴う社会経済情勢の動向予測と市民生活への影響に関する調査」中間報告書
- ◆ 資料5： 「都市の魅力向上に向けた若年層の意識及び消費動向等調査」中間報告書

1. 神戸 2025 ビジョン（素案）について

<事務局>

－資料 1 に基づき説明－

2. 質疑応答及び意見

<委員>

- ・数値目標の仮というのはあくまでも仮なのか。それとも一つの方向性を見せているのか。例えば、基本目標 5 の数値目標は胃がん検診の受診率で、基本目標 7 は市内留学生の数となっているが、それぞれの目標の中ではいろんな項目があるので、代表的なものという位置づけなのか、それともこれからもう少し詰めていくのか。

<事務局>

- ・基本目標について現在は仮のものである。庁内の関係部局と調整して現在出てきているものをあげている。これよりもいい目標があるといったアドバイスをいただければ、数字がトレースできるかも含めて検討する。

<委員>

- ・案があるわけではないが、例えば基本目標 7 は地域コミュニティの活性化や産学官の連携強化ということで、数値目標が市内の留学生の数というだけでは、結びつきがない。定性的になるかもしれないが、地域活動や産官学の連携のプロジェクトの数といったもののほうが、わかりやすいと感じた。

<事務局>

- ・胃がん検診の受診率が安心・安全、健康でゆとりあるくらしの実現を代表する KPI なのかという議論が内部でもあった。これだけではなくいろんな項目があると思う。今日は途中段階で申し訳ないが、これを測るうえで、今に時代に有効な KPI を設定したいと思うので、確定するまで指標についてはご提案いただきたい。

<委員>

- ・KPI は事業例の KPI と基本目標の KPI と二段構成になっているが、事業例の KPI の中で一番、その基本目標を表している代表的なものをいくつかあげたいと考えているということなのか。

<事務局>

- ・基本目標全体の数値目標となるので、KPI で掲げている目標は一部出てきているが、それぞれの施策の KPI を受けての全体の数値目標となる。

<委員>

- ・今後、意見をいただくなかでご提案をいただいたり、また後日でもお聞かせいただいで確定するということがいい。

<委員>

- ・基本的な考え方 4 つの中から 7 項目も目標を展開し、前回の議論も踏まえていただき

非常にすっきりとしてきた。5年間のビジョンを定めているなかで、基本目標1の経済成長として魅力的な仕事の創出をしていくということ、中小企業に関しては生産性を向上していくということ、視点が新しいことを起こしていきましょうというところを重視しているが、この5年間に起ころうとしている一番大変な問題は後継者不足で、今ある企業の3割ほどが後継者不足のために事業承継ができないということが、現場での喫緊の課題である。経済成長を目指すなかで、新たな産業を起こしていくという視点とともに、今ある事業をしっかりと守っていく、他市とは違い、力を入れていくという視点での目標の設定をしていただければと思う。

<事務局>

- ・今記載しているのは、新たに変わっていくということに重点をおいた書きぶりになっているが、ご指摘のとおり今直面している課題をどう対応するのかということも非常に大事なので、修正をしたいと思う。

<委員>

- ・このビジョンの最終的な到達地点として、神戸に住みたい、神戸で働きたい、若い人たちが神戸に集まるといった、魅力的な神戸を目標とするならば、基本目標のなかでそれぞれの目標の到達点とすれば、結果的には充実した豊かな暮らしが保障されるものであるが、直接的に心豊かな街、幸せを実感できる街になるという言及が基本目標のなかでどこに当たるのか。少し無理はあるが基本目標5の安心・安全、健康でゆとりある暮らしになるかと思うが、誰もが暮らしやすい街づくりの推進といえ、バリアフリーや生活困窮者の支援や医療といった支援の面になるが、もう少しストレートに心豊かになれるとか幸せになれるというものが欲しい。そういうものがあれば、住んでみたい街ということがストレートに伝わると思うが、それが少し足りないと感じる。

<事務局>

- ・全体を通して、目指すところの最後にある、住んで心底よかったと思えるという記述がないと思う。これは基本的な考え方の部分に明記しないといけないのかなと思う。本来は総論のところに書くのかと思うが、どこに書くべきかご意見いただきたい。

<委員>

- ・厚生労働省の国民生活基礎調査で、悩みやストレスのある人の率が、神戸市は政令指定都市20市のなかで18位、52.8%で非常に悪い。人口動態調査では自殺が政令市の中で14位とよくない。その結果からこの街が本当に住みやすい街になるのか、深刻な問題である。

<委員>

- ・心の問題はあまり書かれていない。総論のあたりに書くのは大事で、全体を束ねている部分なので、そこに書かないことにはその後につながらない。

<委員>

- ・タイトルのところで、前回の議論により「人と自然が奏でる～」となったわけだが、東京一極集中で若者の流出が止まっていない状況で、タイトルはこのままでいいのか。流出が止まっていれば、よりステージが高いということではこのままでいいが、現実はまだそこまで到達していないので危機を覚える。基本目標で魅力的な仕事や雇用的なところが大事で、働きやすさがベースとなるなら、若い人やみんなが働くというところは残してほしい。中小企業を取り上げるのはいいが、2025年には団塊の世代が75歳を迎えるという現状をどう維持しながら、新しい人との入れ替わりといった事業承継やM&Aも含めたことが課題である。1~9の順番や追加について、もう一度再考してほしい。

<委員>

- ・基本目標1に事業承継など事業をいかに継続していくかという視点を新たな項目として立てるべきか。1つの基本目標として新たに立てるということも考えられるが。

<委員>

- ・構造転換とスタートアップの融合が大事で、ベースのないところに新しいものがきても成り立たない。単純に中小企業の生産性向上は今すぐにやらなければならないことであり、5年もかけてやることなのか。

<委員>

- ・全体構成の展開から、持続可能な社会、SDGsが前段に出ている。事業や産業にしても持続可能であることが大前提である。この書き方では人だけが東京に集中しているようなイメージだが、人だけでなく産業も一極集中している。神戸の人口が減少に転じたということは、産業も減少に転じているということである。それを明確にしたほうが、問題が明らかになる。人が減少しているだけではない。神戸の産業も持続可能性を脅かされている。全てにおいて大事なところだと思う。他市でも同じ問題を抱えているが、その中での神戸の在りようを明確にしていくことが大事である。SDGsを受けた産業施策を展開するのが一番流れがよい。このあたりの工夫によって、随分印象が変わると思う。

<事務局>

- ・事務局で書きぶりは検討する。

<委員>

- ・基本的なところに、先ほどの意見のような考え方を入れると、その後のことがつながる。今は一つ一つ孤立した感があるので、委員がおっしゃった点もあわせて、話としてまとめるという視点をもって進めたい。

<委員>

- ・危機感が足りないのではないか。これを読んで最初に感じたのはその点である。神戸経済はかなり厳しい。コロナの影響があり、JR三ノ宮駅前のビル建設がストップし、

それを起爆剤と考えていたがなくなってしまった。従来の延長上で計画が進化するというイメージで手堅く整理されているが、もう少し危機感を全面に出して、神戸が危機的状況にあることをはっきりと出し、工夫して書いていただけないか。産学官連携はどちらかといえば基本目標1の経済活動と連動しているかと思われる。地域政策では産学官連携は、昔から言われてきて言い古されているが、いまだに出続けている。いまだに問題が解決できていない。これがきちんと位置付けられているのはとても重要なことである。神戸がどのように動くのかが問題。ビジョンとして具体的などころは書きにくいかもしれないが、一步踏み込んで危機感と対応するかたちで強化してはどうか。プラットフォームを作るという話になるが、まだどこも成功していない。神戸もプラットフォームを作っているのだから、それがどのようにワークしていくのかを書いていければ。一步踏み込むとよい。

<委員>

- ・基本的方向のところ、危機感について含ませるといことになると思う。それに加え、産学連携が、コミュニティを作る、若い外国人の留学生の定着という意味で、基本目標7に入っているのだから、その関係で大学全体についても地域との関わりということで7に入っている。一方で、1の人材のプラットフォームを作るといことも大学が関わっており、再掲のような形になるのかもしれないが、工夫をお願いする。

<委員>

- ・外国人との共生が一番前に持ってきてもよい。神戸の歴史を振り返っても、外国人と共生し、海外からの物や文化により神戸の魅力や個性をつくってきた。なぜ7番目にくるのかと思った。神戸は様々な国籍や人種の方たちが集まった街であったので、もっと前の方に持ってきてはどうか。副タイトルに工夫を感じるが、すこし古いと感じる。人と自然は、神戸はこれまでに海と山とよく言われてきているので、副タイトルと内容があっていないように感じる。もう少し変えた方がよいのではないか。全体的にカタカナが多い。シビックプライドが分かる人はどれだけいるか。市民が読んで分かりやすいように、カタカナ（外来語）を日本語に直訳し辛ければ括弧書きで補足するなどして、わからない人にとっては、わけのわからないことになる。できるだけ理解しやすいようにかみ砕いて書いてほしい。いくつか表現で重複などあるので個別に提案したいと思う。

<委員>

- ・7ページの企業誘致も経済界では外資系を取り込んでどうかとされている。六甲山のスマートシティ構想はトヨタの街のイメージがあるが、どんなものを想定されているのか分からない。8ページの神戸医療産業都市では hinotori があることは知っているが、その後がないので困っている。次に目指すものが必要ではないか。三宮の再開発は今の計画をそのまま書いているだけで、これがビジョンと言えるのか。

<委員>

- ・生産性の向上などの構想を含めた改革は必要だと思うが、それに加えて労働者の観点からみると、神戸にある企業がどういうものかあまり知られていない。魅力的な仕事という部分に、若者をどうしっかりとつなげていくかの視点を取り入れていただきたい。産官学の部分になるかもしれないが、教育の面で仕事について学ぶ機会が必要という話も以前あったので、そういったことも取り入れるとよい。神戸の中で会社を選ぶという点では、不安定な社会のなかで安定志向があるので、神戸の企業の今後の発展を見せられるようにすることが大事である。構想の段階で止まっているというご意見はもっともで、そこからどうなっていくのかというところまで、もう一步踏み込んで、それが伝わるような内容にできればよりいい。

<委員>

- ・働く観点では、新しい生活様式に対応した②新しい生活様式に対応した企業活動の支援や、⑥六甲山上スマートシティ構想の推進はリモートの新しい環境に対応した働き方の話になる。人材のプラットフォームでどうやって集めていくか、新しい時代の対応、新しい産業という流れにして、人材のプラットフォームのところに教育の話が入ってくると思われるので、工夫をしていただきたい。
- ・心の問題ということでは、委員は基本目標5とおっしゃったが、基本目標2は文化芸術であり、ここにも当てはまると思われる。ここで、心の在りよう、幸せに関して書き込むとすればどうすればいいか。

<委員>

- ・文化芸術活動が心を癒し、励ますということになるので、そういう書きぶりになっていて、基本目標2の神戸市文化芸術推進ビジョンの取組のあたりに入るのかと考えられる。もう少し、KPIにバロメーターになるような数値目標を入れるといい。例えば、文化ホール等の入館者数など、市民がどれくらい文化施設に訪れているのか、2年前に政策研究大学院大学が全国のホールを対象にアンケート調査を行い、文化ホールは認知率が高くリピート率が高いというように高く評価をされたが、そういったことを調査対象にしてはどうか。文化財では、神戸市文化財保存活用地域計画の肝は保存・活用となっているが、保存の大事だがどう活用するかということに重点があり、地域愛を高めるために、地元どんな文化財があつて、それをどうやって市民と結び付けていくのかを検討したり、連携してセミナーを開催したり現地説明会などをやり、それによって市民の暮らしを豊かにしていくことに関わっていくと考えている。

<委員>

- ・文化芸術推進ビジョンの取組で、満足度は心の問題だと思う。こういったところは工夫しながら取り組んでいただき、文化財の活用はセミナーの回数などが可能かどうかをご検討いただきたい。

<委員>

- ・④新図書館整備の推進とあるが、市長が号令をかけて力を入れているが、残念ながら市民一人あたりの蔵書数は、政令指定都市のうち19位で、1位の静岡市の4分の1である。こういったことから、子どもたちや市民の情操教育からするとよくない。

<委員>

- ・市民の方の心のゆとりや豊かさにつながるような、ということがとても大事である。国際的なイベントや華やかさも大事で、知名度が上がってイメージがよくなり、観光客が増えるが、市民の日々の文化芸術活動が忘れられてはいけない。例えば須磨海岸の魅力向上で大々的なリノベーションをして観光客が増えると思うが、それによって須磨水族園へ市民が親子連れで行きにくくなってしまう。外から人は来るが市民にとっては使い勝手が悪くなるということがあってはならない。身近なところで文化に触れられるように、駅前にある文化センターなどでも市民が日常的に音楽やスポーツで利用でき、近場にあつてよかつたと感じているかということにも目を向けてほしい。

<委員>

- ・スポーツの振興で、スポーツイベントの開催件数とあるが、市民がどのようにスポーツに関わっているかという視点もあればいい。蔵書数についてはショッキングであり、ただちに改善できることではないが、自覚を持つように。駅前空間の魅力向上についても、街の質、暮らしの質ということもあるが、心の豊かさについても、単にコワーキングスペースとして拠点性があるだけではなく、そういう部分があつてもいいのではないか。あれもこれもは難しいがお願いしたい。例えばストリートピアノはそういう方向性を示している。

<委員>

- ・質問になるが、基本目標1の六甲山スマートシティ構想は、企業の魅力を高める街づくりなのか。企業とクリエイターと住民のコラボということでは、基本目標2に入るのではないか。どちらに重点をおいたものを目指すのかによるが、それによって書き方や方向性が整理されるといいのではないか。

<事務局>

- ・六甲山の取組については、観光客や賑わいといったもので、六甲山で芸術を感じるというフィールドとして取り組んでいる面と、今回の六甲山スマートシティ構想は、これまでの遊ぶという視点に加えて、働くという視点も加えて打ち出しているので、仕事の方に書いている。六甲山そのものの活性化という意味では、働くだけでなく、遊ぶ・働く・暮らす、の3つがバランスよく展開されるべきだと考えているので、書きぶりや再掲とするなど、両方の視点がわかるようにしたい。

<委員>

- ・文化やスポーツは都市として輝きを取り戻す重要なキーワードとなる。スペインのビルバオは世界的な文化都市となり、スポーツで一気に輝きを取り戻している都市もあ

る。ソフトな都市の力が重要である。神戸はもともと良いイメージがあり、産業の力も持っている。そういう意味ではこの文化やスポーツをもっと前面に押し出して、神戸産業都市の新しい姿を見せていくことが重要である。

- ・④新図書館整備の推進で、ゆったりとしたスペースで居心地の良いとあるが、どこの図書館のことかわからないが、三宮などの市街地にある図書館では、ゆったりとしたスペースで本を読むような場ではなく、もっと別の機能を付与して、例えばビジネスインキュベーターとして情報を提供し若い人を刺激し、新しいビジネスが生まれる拠点にしたり、大学との連携などにより図書館をよりアクティブにするなど、新しい図書館のイメージを作ってほしい。

<委員>

- ・④の新図書館整備の推進は、垂水区と西区の図書館についてのことだと思われる。明石の図書館を意識されていると思うが、駅前でゆったりとしている。

<事務局>

- ・各区に図書館があり、それを市民にもっと身近なものとし、交流の場や刺激を受ける場とすることをベースに考えている。一方でもっと何か大学と連携しながら、インキュベーターといった観点も重要である。区民に身近なものという位置づけと、もっと知的な拠点として機能を高めていくことの両方が充足するように考えていきたい。

<委員>

- ・神戸は郊外の再生に力を入れており、西神中央や垂水は重要な拠点である。そごうの跡地を商社に売られたそうだが、西神の持っている必要なリソースはアクティブでない人たちが何か活動の場を探しているのではないかと思われるので、女性が働ける場を作り、そこに図書館を併設したり、新しい郊外の構図を作っていくことが重要ではないか。垂水は福祉的な連携を検討しているようだが、そういった特徴のある姿を、図書館などを引き金として作れば、郊外の再生というものが面白くなるのではないか。

<委員>

- ・文化に関しては、神戸市室内管弦楽団と神戸市混声合唱団という2つのプロの楽団を持つのは全国の都市では神戸市だけである。両方とも伝統のある楽団であるが神戸市として有用に使っていない。神戸のブランド力の向上に上手く使えておらず、極めてもったいないと言われている。音楽界の人には素晴らしい楽団だと言われるが、神戸市民にはあまり認知されていない。この楽団をつかって、神戸の文化のブランド力を上げていかななくてはならない。

<委員>

- ・基本目標2「神戸独自の文化・芸術・魅力づくり」で、具体的な施策ではハード整備の話が多い。ハード整備は昔からされてきて特徴の一つではあるが、お金を投じすぎだという批判もある。魅力としてハード整備だけをやっているように見えないよう

に、工夫が必要である。魅力づくりでは、美しい街や過ごしやすい街ということも含まれてはいるが、住宅地としての魅力について触れられていない。⑩で移住促進を図ると掲げているが、住宅地として魅力的についても盛り込む必要がある。山と海の魅力と言われてきたが、山のことにあまり触れられていないのが気になる。

- ・基本目標全体を通じて、基本的方向の書きぶりについて危機感を明確に示して書くべきである。また、基本目標によってボリュームの差がある。基本目標1では背景や課題が述べられたうえで具体的施策について書かれているが、基本目標3以降はボリュームが少なくなり、あまり背景や課題の言及がなく、こうしますという宣言になってしまっている。市民になぜこの施策をしなければいけないのか、なぜこのビジョンと立てたのか、根拠を伝える必要がある。課題を示したうえで、課題解決のためにする施策もあれば、更に神戸をよくするプラスアルファの施策も盛り込まれていると思うので、基本的方向の書きぶりについては、もう少し論理的に背景、課題、具体的施策の道筋が伝わる書きぶりの方がよい。目標によっては、具体的な施策名を言及するものもあれば、そうでないものもあるので、最終的には整合性をとっていただきたい。

<委員>

- ・レベル感の差と、後ろの方に行くと考え方が薄くなっている。絶対にやらなければいけないということで、書きにくいのはわかるが、粒度感は揃えた方がよい。住む魅力をどこに書くかは、基本目標6にインフラの話があり、そこに住宅の話もあるが、住む魅力としては基本目標2にも当てはまるので、再掲なりしてはどうか。

<委員>

- ・再掲でいいと思う。

<委員>

- ・基本目標2は、外に向けての神戸のソフトパワーについてのことと、同時に住んでいる人にとっても魅力があるような、内向きと外向きの両方がいるということである。基本目標1と2はしっかりとストーリーが書けているので、もうひと工夫をお願いしたい。

<委員>

- ・KPIの観光消費額はアンマッチな気がする。インバウンドと市民の2つの面があるならば、明確に二本立てにしなければ、混ざってしまう。インバウンド用なのか市民のためなのかという矛盾を抱えてしまうような表現になってしまう。

<委員>

- ・基本的方向で、まだ内向きと外向きの二つの視点の整理ができていないが、そこが整理できれば、それに合う数値目標を選んでいただけたらと思う。基本目標3と5について意見をいただきたい。

<委員>

- ・基本目標3について、ここから書きぶりが変わったと感じた。キーワードとして切れ

目ない支援と情報発信とあるが、基本目標がそれを表すものになっていない。KPI が全て利用者数となっているが、子育ての支援については満足度や利用のしやすさなどの方がよい。子育て支援施策と教育で、子育て支援施策にはもっといろんなものがあり、住むということも子育て世代には非常に重要なことで、どこを選択するかによって、その子どもが育ちそこに住もうと思うのかということに関わってくる。そういった視点を含めることができるとうい。市民の中には子供も含まれているが、その子どもが将来、神戸に住み働く可能性があるので、その子どもをどう育てていくのかということの基本目標の中に書いていくことが重要である。

- ・計画全体で若者を重視しているが、若者も子育て世代も幅が広いので、ターゲットはどこなのか不明確である。もう少しはっきりすることができれば分かりやすくなる。カタカナが多く、用語が難しいという点については、福祉関係では、用語の解説を下に書いたり用語集をつけることが多いが、工夫されてはどうか。

<委員>

- ・若者の定義については前回の議論でも上がったが、狭い定義ではなく子育て中の人を含んで幅広に取り、ターゲットごとに考えるということになった。なお、もう少し分かりやすく、そこを意識した表現を工夫するように。

<委員>

- ・子育て支援という利用者数も大事だが、福祉は個別性が高く、参加者が多ければいいわけではなく、そこでどんなサポートや支援、サービスが提供されているかという質が重要である。基本目標5とも共通するが、高齢者や障がい者の安心・安全・健康がテーマであり、非常に難しいと思うが、定量的な指標が多く、人々の暮らしをどう評価するかにあたっては、定性的なものもあればいいと思う。デイサービスの個所数が増えても、どんなサービスが提供されているかが大事である。人とかかわる仕事にもう少しお金や時間を注力してほしい。このビジョンは神戸市がこんなことをしていくということも大事であるが、神戸市自身がどう変わらなくてはいけないかも入れてほしい。人とかかわる仕事では、専門職の人を増やしたり、質を高めたり、よりよい市民サービスができるようなものも入れてほしい。非常に難しいので、漠然とした定性的なものになってしまいがちだが、人数や個所数などが増えただけでよいというのは残念である。
- ・人を大事にするという表現について、人に対しては大事よりも大切という言葉の方が柔らかくていいと思う。22ページのKPIの計画相談支援員とあるが相談支援専門員という正しい職名に変えてほしい。

<委員>

- ・アウトプットを実現してアウトカムがどうなるかという考え方が必要である。言葉の指摘も受け賜る。このビジョン2025がこの5年間でやる仕事を書くので、目標ではないので、5年間でできないことは別の機会に書くべきだが、基本方針は方向性を示

すものである。基本的方向の量を統一した方が良い。

<委員>

- ・教育環境の充実のところ、仕事の両立支援や特色のある学びをとることが中心に書かれているが、安心して教育を受けられる環境づくりについて弱いと感じる。親が安心して任せられるというような環境をしっかりと作っていくということも大事であり、それを入れるといい。

<委員>

- ・17 ページ③神戸の特色ある学び（創造的学び・国際教育など）の推進で、大きく2項目あるが、創造的な学びを取り入れた活動とは、どういったものか。

<事務局>

- ・昨年度より研究会を立ち上げ、まだ実験的であるが KIITO を拠点にしながら、子どもに自由に考えさせたり行動させたりすることを側面的に支援する取組を行ったり、街歩きを通じて未来の街を考えたりといったことを、まだまだ実験途上だが、産学官、地域の方と連携しながら、いろんな取組を試みていて、他の地域にも広げていきたいと考えている。

<委員>

- ・基本目標4は学習指導要領のことを書いているだけで、これをやるのは当たり前のことで、あえて書く必要がないと思うが、安心して学べる環境はとても大事で、安心して学べて、かつ学力の底上げも基本となる。特色のある課外授業やグローバル人材もいいが、例えば神戸の小中学校では学力をしっかりと底上げでき、安心して学校に通わせることができるという環境を作ることが一番大事であり、まずそこを1番目にもってきてほしい。兵庫県の教育のイメージが悪くなっているので、なおさら基本の部分をしっかりと立て直さなければ、学びは若い世代が選ぶ優先項目なので、基本をしっかりと打ち出してほしい。

<事務局>

- ・基本が一番大事なので、しっかりとさせたいうえで創造的なことができるように。残念な出来事が続いているので、そこは大事にしていきたい。

<委員>

- ・セカンドキャリアというか、これからの働き方改革の中でキャリアを上げていこうとすることがあり、その教育に関して抜けている。

<委員>

- ・基本目標1のところでも出ているが、クリエイティブな仕事をする環境を作っていくためにも、学びの段階からそういったことを取り入れていく必要があり、それを産学官の連携で機会を増やしていく、またそれを企業を知ってもらう機会につなげて、連携ができるとより発展性のあるものになるのではないか。学びと仕事や暮らしをつなげていけるといい。

<委員>

- ・生涯にわたりどうキャリアを作るかという視点も必要である。教育を安心して受けられる環境は、心理的に学童に安心して預けられるということもあるが、子どもの貧困の問題もあり最低限保障が必要となるので、そこまで踏み込まなくてもいいが、そういった部分もある。学力の底上げは大事なことで、この5年間で目標を掲げて書くには範囲を超えているが、そういった視点もあっていい。

<委員>

- ・教育において、心にゆとりをもって遊べる環境も必要である。基本目標5のゆとりある暮らしにも関連するが、近場の公園を積極的に活用するというところを取り入れてもいいのではないかと。特にコロナで外出自粛となり、唯一の息抜きができるのが近場の公園だったということもあるので、外部空間はどうしても建築物の中で後回しになるが、今後は戦略的にオープンスペースを作って配置し、それを皆さんがうまく活用できる場所があれば、子どもの遊び場にもなり、一般の大人でも息抜きの場所となる。オープンスペースの活用についても視点として入れられたらと思う。

<事務局>

- ・神戸は自然環境が豊かであり、それをうまく生かしながら、特に子どものうちに自然の中で体験をするということが大事であるので、学力ということと併せて、遊ぶということも大事にしていきたい。

<委員>

- ・健康・食という観点で、基本目標5のなかで基本的方向が2つあり、特別なニーズや手当が必要な方々については具体的に①～③に書かれているが、人生100年時代で健康増進や健康で長生きすることや、今元気な方々の部分が薄い。⑥にこれからいろんな施策が出てくるが、これからのことでもう少し書いたほうがいいと感じたのは、MY CONDITION KOBEが立ち上げられているが、それを活用したビジョンがあってもいいのではないかと。KPIで、利用者数が2万人というレベルがこの5年で、これで健康寿命が延びるのかという点で不安がある。医療費削減や健康寿命が延びるといふのは長期的なことなので、KPIにするのは難しいのかもしれないが、神戸市にいれば、元気に歳を取ることができ、医療にかかるまえに食と栄養で、健康に暮らせるというのがアピールできればと思う。

<事務局>

- ・おっしゃるとおり、健康増進と書いているわりには施策の部分が薄い。データを未病・予防に生かすことがこれからの展開になるので、そういった先にあることも含めて書いていきたい。

<委員>

- ・心の問題、ゆとりの問題が薄かった。基本目標3と5では健康面や教育面での心のゆとりのことについても基本的方向のところに入れていただきたい。基本目標4と6が

社会のインフラのことだがご議論をいただきたい。

<委員>

- ・基本目標4で、災害や感染症を踏まえたところがあるが、何が起きるかわからなくなっているが、南海トラフ地震が少し忘れられている。防災・減災で書かれている内容はまさしくそのとおりであるが、南海トラフ地震を明確に位置付けて、それへの対応について書かれてもいいのではないか。災害対応は全てのインフラ部分に当てはまる。基本目標の中で書くのか、神戸にとって災害対応は、企業でも教育でも全てに当てはまるという位置づけをしたほうがいいのではないか。そうすれば、安全に配慮して、安心して暮らせる街というのは、企業にとっても安心につながるので神戸への投資に展開する可能性がある。日本全体が危険列島であり、なおかつ南海トラフ地震に直面する神戸が、安全だと明確に示せるといい。

<事務局>

- ・コロナの影響もあり、南海トラフ地震が抜けてしまっているが、ベースにある危機意識や基本的課題ではそれをしっかりと書いておくべきだと思う。安全都市宣言で神戸も南海トラフ地震等を想定して津波対策や浸水対策をとっていて安全であるということも触れることができると思う。

<委員>

- ・安心だと言いきれるのか。

<事務局>

- ・想定外のこともよく起こるので、どこをもって安全というのかは難しいが、そういった対策を着実に進めているということ、ソフト面でも避難のことなど、震災を経験した都市としては人の命を最大に守る取組をしているということは、表現していきたい。

<委員>

- ・避けられない、必ずやってくるのでダメージは絶対にあるが、防災というのはそれをいかに小さくするか、減災は受けたダメージからいかに柔軟に元に戻る力があるかといことを、うまく書き込んでいただきたい。

<事務局>

- ・安全と言いきるのは難しいと思うが、こういったことを講じて、なるべく小さくする努力をしているということは言える。

<委員>

- ・基本的方向を少しでも充実させるということで考えると、市としてダメージは避けられないが、なるべく少なくするなめに出来る限りのことをするというところだと思うので、もう少しわかりやすく、そういった考え方について触れていただくことと、南海トラフについても願います。④で感染症などを踏まえた消防体制とあるが、救急の方が消防にいるという意味だと思うが、普通は消防といえば火事を消すというイメージ

ジなので、感染症の話で消防というと違和感があるので書き方を考えてほしい。

<委員>

- ・完全な安心・安全は難しい。ダメージを受けたとしても、いかに早く回復できるかという観点で街づくりしている。そういった観点を基本目標4や6に盛り込めばいいと思った。市民が一番不安なことは住まいが定まらないことである。ダメージを受けて避難所や仮設住宅に移り、なるべく早く次の住まいが決まるような流れを、市が整えていくことが、市民の安心につながり、レジリエンシーの高い街になる。どう書けばいいのかわからないが、安定した住まいについての具体的な施策について言及できるのではないかな。
- ・質問になるが、災害について土砂災害はどうか。神戸は山が街の近くにあり、山のふもとに住んでいる市民も多く心配である。災害に強い港づくりや、浸水に強い街づくりもあるが、災害の種類が増えている。土砂災害についても言及したらいいのか考えていただきたい。
- ・基本目標6について、⑤は持続可能なまちづくりという広域的なタイトルとなっており、神戸は計画的開発団地が多いので、計画的開発団地の持続可能なまちづくりの推進というようにテーマを狭めてタイトルをつけてはどうか。基本目標4の⑦自転車の利用促進について、コロナと絡めて利用促進を図るとあるが、もともとはCO2対策で、車を減らすということであり、エネルギーともかかわってくる。コロナは早い収束を望むが、ビジョンは5年なのでCO2のほうで書いた方が良いのではないかな。

<委員>

- ・こんなに山が迫っているわりには土砂災害が少ないように思う。

<事務局>

- ・土砂災害はハード対策とソフト対策があり、ハードは国や県の仕事である。市の仕事は避難などソフト対策が主である。減災としては情報をだして避難してもらうことを中心に書くことになる。

<委員>

- ・交通インフラが基本目標6にあるが、交通インフラが災害時にいかに堅牢であるかということが必要であり、港だけが書いてあるが、港以外も書いていただければと思う。基本目標6に温室効果ガスを34%削減と書いてあるが、国の目標と一致しているのか。国の目標以上のことを求めるといったことなのか。

<事務局>

- ・確認する。

<委員>

- ・内容の重複があるのではないかな。④感染症などを踏まえた消防体制のなかに、行政のスマート化とあるが、⑨に行政のIT化の推進があり、表現の仕方はちがうが、同じことだと思う。

<事務局>

- ・重複しているので整理する。

<委員>

- ・基本目標7や全体の構成について意見はないか。サブタイトルについても。

<委員>

- ・30ページの③大学との連携促進で、大学が地域と連携するというのは現実には難しいが、神戸だけは大学が行政と手を握り、経済界も含めてうまくやっているというモデルになれば、すべてにおいてそういう構図が機能すると非常に面白い。教育でも常にそういった連携の構図を作っているのは、ありそうでないので、そこに注力されてはどうか。

<委員>

- ・これからの時代、ライフデザインやキャリアデザインをどのように自分で築いていくかが重要となる。街の将来のデザインにつなげていけるような場が必要となり、地域活動の活性化や、大学との連携の両方になるかもしれないが、既存のコミュニティの活性化に限らず、自分たちで自分たちの街をよくしていくというような、つながりを作っていければいいと思う。セカンドキャリアの話もあったが、そういった方々が企業だけでなく、まちでも活躍していただけるような、こういうところにも入ってもらい、若者と地域の密着ということも活性化するのではないか。そういったことも入れていければいい。

<委員>

- ・神戸市は地域連携プラットフォームを立ち上げようとしているが、全国で初めての取り組みである。文部科学省が神戸市でやるということになり、ご期待頂きたい。大学の地域連携の教育もキャリア教育と密接に関わっている。神戸の大学で学び、その後もいかに神戸に残ってもらうか、あるいはある程度東京などで働いた後に神戸に戻ってきてもらうかということで、努力しているが実際の状況はかなり厳しく、全く数値目標は達成できず、同時に全国の大学で計画して行ったが、ほとんど全てが失敗に終わった。また新しく地域連携について模索していかなければならない。

<委員>

- ・基本目標7の①外国人との共生で、企業、法人で働く外国人と書かれているが、留学生ではなく技能実習生のこと、また留学生や技能実習生がコロナの関係で困っているという報道があるが、神戸の中でもそういったことが起きているのか。介護福祉士を養成している関係で、県との関わりになるかもしれないが、インドネシアの看護学生や医学生を受け入れており、介護福祉士の養成について学んだり、こちらから行って支援をしてきたが、日本で学び働く外国人のなかには、介護や看護の分野も増えており、そういったことについても、今後神戸市として取り組む予定があるなら、書いていただきたい。農業に携わっている外国人もいるかもしれない。

<事務局>

- ・神戸は多くの留学生や海外からの転入が多い。コロナの関係で仕事がなくなり経済的に困窮をされたということで、公園や登山道の清掃活動などに関わってもらい謝金を払うということを実施した。また外国人にとって災害時の連絡や情報の共有が重要であり、多言語の情報発信ツールを持っているが、それぞれのコミュニティの方からの情報発信で情報がいきわたったという実績があるので、地域の海外の方のコミュニティも通じて一緒に、海外の方が安心して暮らせるような取組を行っている。どのように書き込めるかは検討していく。

<委員>

- ・介護の人材については6ページの基本目標1のKPIの例として紹介されているので、ここに書くことも可能かと思われる。

<委員>

- ・大学との連携促進で、連携協力を強化するとあるが、誰が主体的にやるのかが不明確である。どこもうまくいっていないという現実があり、大学・産業界・行政の3者に任せておいて連携協力ができるのか。非常に無責任だと思う。ここで必要なのは大学・産業界・行政を連携させるためのコーディネーターであり、アイデアを出して説得をし、協力をさせていくということをしなにかぎり、3者に任せきりではうまくいかない。神戸新聞社のエムラボのようにもう少し突っ込みが欲しい。

<委員>

- ・エムラボも長続きしていなかったのでは。産業界からしてメリットがなかった。最近では大学も変わってきていて、大学の中に企業とのマッチングをさせる組織を作って活動している。大学の地域連携はボランティアベースだったので、一つの解決策は産学連携。利があるとみんなが動いていく。

<委員>

- ・動機が内発的なものでなければならない。事業者、金融機関、行政が自らの存続のために変わろうとしている。自らの過去の延長でものを考えてはいけない。新しい見方でやっていかなければ、いろいろなところがだめになる。まっとうな危機感がものを生み出そうとしている。リモデルみたいなものが副題になるのでは。

<委員>

- ・住んでよかったそんな街へ、次への一步など。「神戸」は副タイトルにはいらなと思う。

<委員>

- ・防災の観点で外国人への情報発信が入っていないので入れていただければと思う。副タイトルについては「自然」と中身が一致していないのではないか。確かに「自然」は神戸の特徴であり、自然を生かしてというとハード的な内容はあるが、他に強調されている点はないのでここで押し出すべきかと思う。

<委員>

- ・要援護者の取り組みをせっかく進めようとしているので、入れるといいと思う。

<委員>

- ・隣接都市との関係が書かれていない。防災・減歳という点においても、隣接都市との関係がますます重要になってくる。もっと外に向けて、手をつなぐぞという心意気を見せてくれればいいと思う。

<委員>

- ・副タイトルについては、宿題として考えて、事務局までご一報いただければと思う。

<委員>

- ・住みやすく、活躍ができるというのをうまく表現できればいいと思う。

<委員>

- ・今もそういう評価をされているので、もう少しスパイスのきいた表現になればよい。

3. 今後のスケジュールについて

<事務局>

－資料2に基づき説明－

4. 閉会